

# 校区内のブリヂストンで 中関小児童が工場見学 タイヤ製造の工程など学ぶ

中関小5年の児童たちが、校区内にある世界的なタイヤメーカーの技術を学んだ



中関小（亀田浩太郎校長）5年の113人が14日、15日の2日間、校区内にあるブリヂストン防府工場（浜方、鈴木崇工場長）を見学。コロナ禍などを経て7年ぶり。乗用車や鉱山・建設用のタイヤができる工程を学んだ。

15日は5年3・4組の56人が参加。同社の社名の由来、タイヤや防府市役所の新庁舎に採用される免震ゴムなどを作っていること、同小の約12倍の面積の中で約1千人が4交代・24時間体制で働いていることなどを社員が説明した。

ゴムを練るなどタイヤ作りの工程を聞いてから、児童たちは工場内へ移動。タイヤの形を作り、170度の熱を50分間加えて溝を形成する様子を見た。製品の仕上げ・検査では、1本のタイヤを40秒で異常がないか確認する様子に驚いていた。

質問の時間もあった。社員が原料の天然ゴムはタイやインドネシアから

輸入したり、大きなタイヤを運ぶのが大変といった回答をした。

山崎健生君（10）は「機械が自動で動いたり、検査を終えたタイヤがベルトコンベアで運ばれていく様子が印象に残った。安心して使えるタイヤを作ってくれていることに感謝したい」と話した。

同工場は1976年に

操業を開始。ブリヂストンが進出を検討しているときに、当時の防府市長の案内で中関小を訪れた同社の会長が、児童たちに明るく丁寧なあいさつに感激。従業員の子どもたちの教育が十分に行きわたると思うと決断をしたと言われている。

（吉野敦裕）

「ブリヂストン防府工場見学」

令和5年9月21日  
ほうふ日報